

私たちはその上を簡単に歩くことができるでしょう。しかし、その鉄板が高さ200mの2つのビルに渡されていたとしたら、同じように歩けるでしょうか？やることは変わらないのに、歩けない気がしませんか？なぜなら「落ちたらどうしよう」と考えてしまうからです。

このように、一瞬でも失敗のイメージや苦手意識をもってしまうと、その力は実力以下になってしまいます。

「大事なのは『絶対できる』と信じ込むことだ」と坪田先生は言います。

もう1つのポイントは「戦術」です。

皆さんは「花をかいてください」と言われたらどんな花をかきますか？

ひまわりのような花を描く人、チューリップのような花を描く人、花が1本だったり3本だったり、また地面から生えていたり茎や葉がついていたり……。もしかしたら漢字で「花」と書く人がいるかもしれません。

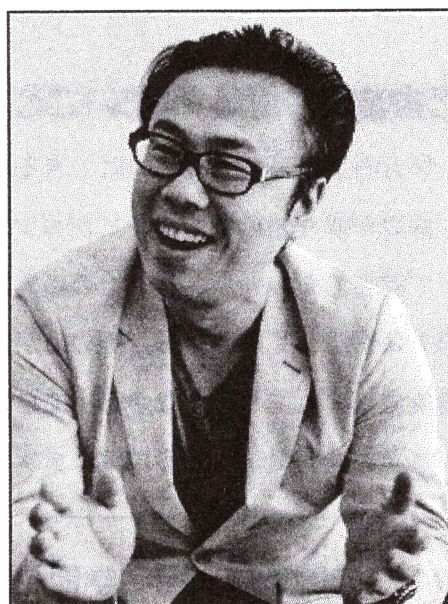
指示があまりにもシンプルだと、このように結果がバラバラになってしまいます。具体的な描き方の説明、つまり「戦術」が伝わっていないのです。あやふやな指示は、指示された側に「どうやればいいの？」という不安を与えてしまいます。

「成果が出ない人に必要なのは、個人に合わせてやり方の指導や指示ができる先生や上司の存在です」

さて、あらためて私たちはなぜ勉強をしなくてはいけないのでしょうか。あるドラマではこう答えていました。「勉強はしなきゃいけないものではありません。したい、と思うものです。知らないもの、『不思議だな』と思うものに出合ったとき、もっと知りたいと思えるから人間なんです」と。

「勉強をしたい」と思えるためには、サポートしてあげる人の存在や言葉かけが何よりも大事だと思います。これは子どもだけでなく大人にも

いえそうな気がします。支えてくれる人の力があれば、秘められている大きな可能性が花開いていくかもしれません。



『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』（通称ビリギャル）の著者である坪田信貴先生

高城中学校のHP(ホームページ)をご覧ください

第3号でもお知らせしていますが、最近の様子分かるようにHPで情報を発信しています。最近では、「生徒会役員立会演説会」「生徒集会」や1年生のキャリア教育「未来 COMPASS」の様子です。ぜひ、「ブックマーク」「お気に入り」「ホーム画面に追加」されてご覧ください。

